

## 令和元年度自己評価シート(中間評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	-----

学校経営目標							
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由		担当部等	
1 生徒一人一人に生きる力を育む学校							
① 確かな学力を育成し、進路目標を実現できるよう支援する。							
■進路目標を明確にさせるとともに、基礎・基本を定着させ、進路目標を実現する。	ア 「総合的な探究の時間」「ミライ探究プロジェクト」等を活用して、生徒の興味関心・資質能力に応じて高い目標を持たせ、自ら進路を切り拓く力を育てる。 イ 個別面談・個別指導を充実させ、生徒の資質能力、進路志望に応じた学力、思考力・判断力を育てる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化の激しい社会を生き抜くため必要な知識・資質・能力を伸ばすため、「総合的な探究の時間」の内容を大幅に見直し、天草研修等、学校外のフィールドで、異業種との連携による先進的な指導を行っている。</li> <li>・学級担任による面談、進路指導部による面談、進路別の個別指導を適宜実施し、個々の生徒の進路希望や学習状況を確認して指導している。</li> </ul>	A	進路指導		
■学習環境を整え、自ら学ぶ意欲と学習習慣を身に付けさせる。	ア ICT等の教室環境を整備する。 イ 家庭学習時間調査を年5回実施し、課題のある生徒には個別指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2学期定期考査を単元別、小分割して分散させることにより、日々の家庭学習を計画的充実させるように指導している。</li> <li>・家庭学習時間調査を計画どおり実施し、家庭学習時間がとれていない生徒に対しては、懇談や面接時に指導をしている。</li> </ul>	A	進路指導 教務 各教科 各担任		
② 心と体を鍛え「誠実・自主・気魄」を涵養する。							
■部活動や生徒会活動等における主体的な活動を通して、集団の中で責任ある自主的な行動をとる態度を育成する。	ア 各部活動や生徒会活動において生徒の役割分担を明確にし、自主的な組織運営を図る。 イ 主な生徒会行事毎に事後アンケートを実施し、次年度の改善点を整理する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週、週初めに生徒会執行部が中心となって自主運営の生徒集会を行い、生徒の自治力を高めている。</li> <li>・不定期に、全校集会で身だしなみに対する意識啓発を行っている。</li> <li>・生徒指導部が中心となり、教員間の情報交換・連携を密にし、組織的な対応を常に意識して行っている。</li> <li>・生徒会が中心となり、生徒が主体的に行事等での企画・立案・運営を行っている。</li> <li>・中学生との集団宿泊研修の中で、加計高の取組や魅力について、生徒自らが積極的にPRを行った。</li> <li>・月1回の定例委員会を開き、活動内容や行事ごとの課題の意見交換を行い、改善点の整理を行っている。</li> </ul>	A	生徒指導		

**【評価結果の分析】**

- ・個々の生徒の進路実現を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別指導を、より一層充実させる必要がある。
- ・生徒が主体的に活動する場面を教員が意識的に作り出すことにより、生徒が自主的に動くことができるようになってきている。ただし、全体的な人数が少ないため、人とのコミュニケーションや社会性といった面の力が育ちにくく、広い視点で物事を見たり考えたりすることが苦手な生徒が多く見られる。多様性を認め合いながら、他者あるいは物事に対して、柔軟に接することができる対応力を高めていく必要がある。

**【今後の改善方策】**

- ・家庭学習時間調査等をもとに、計画的な課題等で個別指導をしっかりと行う。また、単元別、小分割考査の実施により、家庭学習の状況を分析し今後の考査のあり方を検討していきたい。
- ・国際交流や地域でのボランティア活動など様々な人々との体験活動の機会を充実させるとともに、他校の生徒との交流活動を積極的に計画し、自分自身の人生に対して高い目標を持って生活することの重要性について気づかせたい。

2 保護者・地域から信頼される学校				
① 教職員の指導力や職務遂行能力の向上を図る。				
■「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。	ア 各学期に、シラバスに基づいた説明を行う。 イ 外部講師を招聘しての授業づくり研修及び公開授業等を年複数回実施する。	B	・年度初めと必要に応じた時機にそれぞれの授業者から生徒にシラバスに基づいた説明を行っている。 ・10月始めに、研修会で意見交換をした。また、授業観察を行いこれからの授業づくりに生かしていく。	教務
② 教職員の不祥事防止、業務改善を図る。				
■教職員の不祥事防止意識を高揚し、不祥事ゼロを継続するとともに、業務改善を図り職員の外勤務を減少させる。	情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を構築し、業務の効率化・改善を図る。	A	考査を取りやめるなど業務の改善を図ると共に日常的に情報共有ができています。9月末の時点で超過勤務時間45時間/月以下の職員の割合が61%と目標値55%を上回っています。	全教職員

【評価結果の分析】

- ・日々、授業づくりに取り組んでいるものの、研究授業等を今後実施することとしており、より研鑽する必要がある。
- ・先進的な新たな取組を行いながら、業務の簡素化を図る困難さはあるものの、話しやすい職員室で仕事を一人で抱え込まない土壌ができており、効率的に業務を行えている。

【今後の改善方策】

- ・授業観察等計画し、生徒の主体的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。
- ・情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を堅持する。

3 地域とともに歩む学校				
① 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。				
■地域協働を推進し、地域の人材育成に貢献する。	ア 探究活動の時間等で、地域の外部講師を招聘しての授業や体験活動等で、地域との連携を深める。 イ 地域行事への参加や環境美化等のボランティア活動を推進する。	A	・総合的な学習の時間や学校設定科目等の学習において、外部講師を招聘し、専門的な指導をしてもらい、生徒に実習を通して学ばせたり、知識を深めさせたりしている。 ・地域の指導者に来校していただき、ゲートボールや探究活動の指導を受け、学校とは異なる新たな視点を得るとともに地域への関心を高めることができた。 ・ボランティア委員会が中心となり、ボランティアの募集・実施計画の立案・当日の運営管理など、生徒が主体となって実施している。	教務 生徒指導
②積極的な生徒募集を行う。				
■積極的に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、地域内外の生徒・保護者にとって「行きたい学校」「行かせたい学校」となる。	ア 学校の魅力づくりに生徒自らが主体的に加わる。 イ 広報誌「五輪の峰」を学期毎に作成し発行する。 ウ ホームページを常に更新し、新しい情報を発信する。 エ マスコミに積極的に情報提供し、取材を働きかける。	B	・「五輪の峰」を各学期末に発行し、近隣の小中学校、関係機関及び安芸太田町内全戸に配布している。 ・地域の広報誌「あきおた」に加計高校の記事を提供し、情報発信を行っている。 ・今年度も、ホームページをリニューアルし、より閲覧しやすいレイアウトにした。頻繁に更新し、常に新しい情報を発信している。	教務 管理職

【評価結果の分析】

- ・地域等と連携し、開かれた学校づくりを推進している。
- ・地域の人材に恵まれ、外部指導者として本校の総合的な学習の時間や学校設定科目の授業に招聘し、学びの質を高めていただいている。
- ・ボランティア委員会が中心となって活動を行うことにより、ボランティアへの意識・関心が高まってきている。

【今後の改善方策】

- ・ホームページを中心に、「五輪の峰」や「あきおた」の加計高校の記事を充実させ、さらに情報発信を行っていく。
- ・ボランティア手帳などの活用を検討し、活動実績や内容について記録を自己管理する中で、さらにボランティアに対する意識を高めていきたい。

## 令和元年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	-----

## 1 評価結果の分析

## (1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・個々の生徒の進路実現を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別指導を、より一層充実させる必要がある。
- ・生徒が主体的に活動する場を教員が意識的に作り出すことにより、生徒が自主的に動くことができるようになってきている。ただし、全体的な人数が少ないため、人とのコミュニケーションや社会性といった面の力が育ちにくく、広い視点で物事を見たり考えたりすることが苦手な生徒が多く見られる。多様性を認め合いながら、他者あるいは物事に対して、柔軟に接することができる対応力を高めていく必要がある。

## (2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・日々、授業づくりに取り組んでいるものの、研究授業等を今後実施することとしており、より研鑽する必要がある。
- ・先進的な新たな取組を行いながら、業務の簡素化を図る困難さはあるものの、話しやすい職員室で仕事を一人で抱え込まない土壌ができており、効率的に業務を行えている。

## (3) 地域とともに歩む学校

- ・地域等と連携し、開かれた学校づくりを推進している。
- ・地域の人材に恵まれ、外部指導者として本校の総合的な学習の時間や学校設定科目の授業に招聘し、学びの質を高めていただいている。
- ・ボランティア委員会が中心となって活動を行うことにより、ボランティアへの意識・関心が高まってきている。

## 2 今後の改善方策

## (1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・家庭学習時間調査等をもとに、計画的な課題等で個別指導をしっかりと行う。また、単元別、小分割考査の実施により、家庭学習の状況を分析し今後の考査のあり方を検討していきたい。
- ・国際交流や地域でのボランティア活動など様々な人々との体験活動の機会を充実させるとともに、他校の生徒との交流活動を積極的に計画し、自分自身の人生に対して高い目標を持って生活することの重要性について気づかせたい。

## (2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・授業観察等計画し、生徒の主体的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。
- ・情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を堅持する。

## (3) 地域とともに歩む学校

- ・ホームページを中心に、「五輪の峰」や「あきおた」の加計高校の記事を充実させ、さらに情報発信を行っていく。
- ・ボランティア手帳などの活用を検討し、活動実績や内容について記録を自己管理する中で、さらにボランティアに対する意識を高めていきたい。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・定期考査を分散化した成果を進路実現までの長期的視点からも評価していく。
- ・生徒が企画して運営する機会をつくり、「他者に体験の機会を与える」体験をさせる。

## 令和元年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和元年11月1日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	達成したイメージを持ちやすい、明確な展望のある目標であり、そのための指標、計画の設定に連動しており、目標達成のための取組を全教職員で共通のイメージを持つことができる。 これらに加え、3年間を通して取組むプロジェクトを実施するものもあるとさらに良いと思う。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	評価結果から7項目中5項目がA、残り2項目がBとなっており、進捗状況は適正である。 Bと評価されている項目についても、地道な取組を実践しており、今後の改善が期待できる。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	進路目標の実現、学習習慣の確立、地域連携、開かれた学校づくり等を目指した取組は適切かつ効果的である。特に地域連携においてはおおきな成果をあげ、生徒の主体性を育むことに繋がっている。 定期考査を分散化した成果を進路実現までの長期的視点からも評価してもらいたい。
評価結果の分析の適切さ	A	評価結果の分析と生徒や学校の状況がよく合致しており、適切である。 生徒がボランティア活動等で多くの人との関わりを持っており、人数の少ない学校（人との関わりの少ない）の課題を克服できている。
今後の改善方策の適切さ	B	地域貢献活動については、幅広く充実しており、加計高校の魅力を創出している。 学力向上及び進路実現については、継続した取組をお願いしたい。 特に、町内で取り組んでいる「協調学習」を発展させた取組に期待する。 探求活動において、生徒たちが様々な体験ができるよう仕掛けているのは良いことだと思います。さらに、一歩進み、生徒が企画して運営する機会をつくり、「他者に体験の機会を与える」こともできればと思います。
総合評価	A	学校長の掲げた教育目標とめざす生徒像に、生徒自身が自らの目標として進んでいこうとしている。そして、それを支える教職員の組織力を感じ取ることができる。また、教職員の就業改善を図るための取組も認められる。